

令和4年度第3回神戸市歯科口腔保健推進検討会 議事要旨

1. 日 時：令和5年1月31日（火）19:00～20:30
2. 場 所：中央区文化センター1階多目的ルーム（WEB併用）
3. 参加者：足立会長（現地）
（現地）：栗原委員、櫻井委員、末瀬委員、杉村委員、高橋委員、高見委員、
田口委員、坪田委員、中谷委員、中田委員、西尾委員、
前田委員代理（三代委員）、百瀬委員、山口委員、山本委員（50音順）
（WEB）：岩本委員、高木委員、武貞委員、谷池委員、宮本委員、（50音順）

4. 内 容

議題 （仮称）「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」について

1. 市民意見募集結果および市民意見募集結果に対する市の考え方について
2. （仮称）「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」最終案について
3. 今後の策定スケジュール

報告1 令和4年度 訪問歯科診療・口腔ケア事業について

報告2 多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会について

報告3 令和4年度 口腔がん検診について

報告4 その他、情報交換等

1) 議題1（仮称）「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」について

事務局より 資料1（仮称）「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」に対する
市民意見募集結果について説明

委 員：フッ化物応用については、有用性、安全性について明らかなエビデンスも明確である。教員の大変な状況を考慮すべきとは思いますが、我々としては、やっ
とここまでこぎつけたという思いだ。学校現場で平等にフッ化物の恩恵を享
受できると考えている。数値目標等も設置した上で、次のステップへ事業を
推進していただければと考えているので協力賜りたい。

委 員：40通のうち38通がフッ化物応用の意見であったとのことであるが、長い期
間、市の中で丁寧に対応をされて保育所での洗口事業もされておられ、ステ
ップアップされている。タイミングよく厚生労働省や文部科学省からも通知
が出されたのが、いい形でプラスになると感じている。

いよいよプランに盛り込まれ、これまでの積み上げの成果が出てくるのでは
ないかと期待している。歯科衛生士会としても協力したい。

委 員：普段、患者さんと接する機会はほとんど無いが、寝たきりの患者さんに義歯
を作成して、口から食事ができなかつた方が、義歯を入れると座って食事が
出来るようになった症例を経験した。

調整が少ない技工物の作成技術に向けて、もっと努力しないといけないと思
っている。

委 員：フッ化物に対して38件の意見をいただいたが、安全性や有効性についての

内容が不十分ではないか。新潟県の弥彦村の資料を提示して、日本でのむし歯の格差を提示して、有効であると知ってもらえたらいいと思う。

安全性は、WHO が 4 歳、5 歳児にフッ素が禁忌と提唱した内容を誤解されたのではないか。日本ではフッ化物については、フロリデーション（水道水フッ化物添加）もやっていなければ、他の国より取り組みが少ないため禁忌ではない。科学的な根拠や安全性についてははっきり言及していただきたい。

事務局：市の考え方にもあるように、現在、フッ化物洗口、フッ化物塗布のモデル校 4 校では、外部人材を活用して、現場の教員の負担がかからない手法を導入し検証している。このモデル校で行っている洗口、塗布のやり方等について、学校現場、歯科医師会、歯科衛生士会等が入って検証を行いながら、今後どのように進めていくか、検討を続けたい。

会 長：フッ化物については、すでにエビデンスが出ている。一部の方や団体がかかり反対しておられるようだが、WHO や学会でも既に解決済みの問題である。エビデンスは子どもだけでなく、寝たきりの方で歯の根元のむし歯が進行して根元から折れることがある。これを防ぐため、高齢者に対してもフッ化物の活用をいろんな所で今後実施していくことが必要である。

健康格差の縮小を解決するには学校現場で頑張っていたきたい。

事務局：現場に負担をかけない方法を考えていければと思う。

2) 議題 2 (仮称)「こうべ歯と口の健康づくりプラン (第 3 次)」最終案について

事務局より 資料 2 (仮称)「こうべ歯と口の健康づくりプラン (第 3 次)」最終案について説明

会 長：内容について、市民の方々が理解できるかということも含めて修正があるか。先ほど、中田委員からフッ化物の応用のところで効果がわかりにくく説明が足りないのではないかと指摘いただいたが、具体的にご説明をお願いしたい。

委 員：10 ページに、各区の本数などいろいろ書かれているが、ここに新潟の 1970 年代からのフッ化物洗口のデータを入れたら、値としたら 5 分の 1 ぐらいになっているのではないかと思う。そういった数値を参考に追加したら分かりやすくなると思う。

委 員：「たばこ」はわかりやすくなっている。

委 員：「口腔がん」の書き方は検診に来ない方、興味を示さない方のほうが圧倒的に多いため難しい。

会 長：啓発の中で、「入れ歯で傷ができたなら放置しない」というような書き方でも良いと思う。他のがんには見られない定期的な異常刺激などが見られると思う。禁煙するなど色々あると思うが、定期的に歯科健診を受けることが入るかもしれない。

委 員：まず定期的に歯科医院にかかることが、第一歩だと思う。

委 員：障がい者への歯科保健医療対策は、市内に 97 か所ある障がい者対応歯科医院は依頼があれば断らない診療ということで取り合えず見てくださいと応需する形で進めている。そのうえで、必要に応じて、こうべ市歯科センターや市民病院との連携で対応する。

- 委員：災害時における歯科保健医療対策については、令和元年3月22日に東灘区三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）で災害対策会議を行い、マニュアルを作っている。災害時の緊急薬剤は、神戸市として中央区と西区と北区には備蓄されているが、歯科関連の備蓄医薬品はほとんどないと聞いた。東灘区歯科医師会としては現在、災害時対応について、様々に取り組んでいる。会員の診療所3軒に、歯科対応の必要機材を備蓄するようにした。災害時に歯科医療が途切れないよう、災害時の電源確保のために東灘区歯科医師会事務局に発電機も準備している。災害時の迅速な安否確認のため、112名の東灘区歯科医師会の会員にLINEグループを作成している。
- 会長：災害が起きても歯科医療や歯科保健が途切れない形を構築するのが重要である。
- 委員：長田区は、阪神・淡路大震災のときに非常に大きな被害があった。長田区三師会と区行政の間で、8年前に災害時の協定を結ばせてもらった。コロナで、フォーラムが開催できていないので、過去のフォーラムを長田区歯科医師会ホームページや長田区ホームページ上にYou Tubeで載せている。災害を忘れることのないよう取り組んでいる。
- 会長：災害時に肺炎が増える話は周知のことだが、肺炎の成り立ちとして口の中の細菌が増えることと、もう一つは体の抵抗力が低下いわゆる免疫が下がるといふことがある。口のケアと、義歯を入れたり歯を残して口からしっかり物が食べられることが重要である。避難所でのフレイル対策を進めるには、やはり歯科は非常に重要な位置を担っていると思う。これが、フレイルやオーラルフレイル、あるいは障がい者の寿命の延伸、ひいては市民全体の健康寿命の延伸につながっていく。その根幹が、こどもや妊婦の指導であり、全てのライフコースにつながる。

2) 議題3 今後の策定スケジュール

事務局より 資料3 令和4年度歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）について説明

会長：市会報告で内容の変更を言われることはあるのか？

事務局：具体的なことでなく、プランを示したときに市の対策は十分なのかというようなことを言われることがある。

3) 報告1 令和4年度 訪問歯科診療・口腔ケア事業について

委員より 参考資料6 令和4年度訪問歯科診療・口腔ケア事業報告について説明

委員：実績も増えてきており、登録歯科衛生士も少しずつ増えてきている。更に多くの所に訪問に行けるような事業にしていきたい。

4) 報告2 多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会について

事務局より 参考資料7 多職種連携専門部会の取り組みについて

参考資料8 訪問歯科診療及び訪問口腔ケア必要度チェック票（案）

参考資料9 多職種による地域連携【高齢者の口腔ケア】必要性解説チ

ャート（案）について説明

会 長：地域包括ケアは国策であり、訪問診療や訪問歯科診療も国が進めている。訪問歯科診療に行ったことのない歯科医師は約半数で、ルーティンに行っている歯科医師はとて少ない。歯科医師は行かない原因としてニーズがないと言うが、ニーズが見えてないだけでニーズはある。

口腔のアセスメントを標準化して、わかりやすく評価する必要がある。看護師などの医療関係者が見つけてくれることを期待している。多職種連携によりいろんな職種の方々に歯科のニーズを見つけてもらい、訪問歯科診療・口腔ケアにつなげてほしい。

委 員：訪問歯科診療は、費用の問題やどこに相談したら良いのかわからないとケアマネからよく聞く。医師からは歯科のことはよくわからないとも聞く。アセスメントシートは必ず活用して貰えるようなものが必要である。

5) 報告3 令和4年度 口腔がん検診について

委員より 参考資料 10 令和4年度口腔がん検診報告について説明

会 長：芸能人の口腔がんの報道があり市民の関心が高まった。2020年はコロナの影響で全体のがん登録者は2019年に比べて6万人がん登録者が減った。歯科医院への受診も減っている。歯科受診を増やすと口腔がんの発見につながる。以前、百瀬委員から米国での歯科医院が口腔がん検診に取り組んでいるという発表があった（令和4年度第1回歯科口腔保健推進懇話会）が、日本もそうなれば良いと思う。

6) 報告4 その他、情報交換等

委 員：兵庫区の訪問口腔ケアの実績が「0」である。歯科衛生士会から訪問口腔ケアに行ってもらおう神戸市の補助事業がいつまで続くのか？

事務局：高齢化が進み地域包括ケアの核になると考えており、市として訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業は進めていくべきだと思う。一緒に推進していただきたい。

事務局：いただいたご意見を参考にして最終案をまとめていく。ご意見がある方は、2月3日までに事務局にご提出願います。